

平成28年度 公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

施設名	新潟市水の公園福島潟 水の駅「ビュー福島潟」、潟来亭、キャンプ場		
管理者名	福島潟みらい連合	指定期間	平成26年4月1日 ~ 平成31年3月31日
担当課	新潟市北区地域課		
所在地	水の駅ビュー福島潟:新潟市北区前新田乙493番地、潟来亭及びキャンプ場:新潟市北区新鼻乙11番地1		
根拠法令	都市公園法		
設置条例	新潟市都市公園条例		
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> ○水の駅「ビュー福島潟」 延床面積2,607.74㎡/鉄骨・鉄筋造、地下1階地上7階建/管理棟/平成9年7月設置 ○潟来亭 延床面積138.29㎡/木造平屋建/集会所・休憩所/平成9年3月設置 ○キャンプ場 敷地面積4,000.00㎡/芝生、炊事場1棟、釜戸4基/キャンプ場/平成9年3月設置 		

施設設置目的	
	<ul style="list-style-type: none"> ○水の駅「ビュー福島潟」 自然保護と地域文化の伝承及び新たな文化の創造を目指す自然文化の情報発信施設として水の公園福島潟の中心的な役割を担う。また、博物館的機能や美術館的機能を兼ね備えた施設でもある。 ○潟来亭 潟端の昔の民家を再現した建物で、潟の歴史や生活様式を感じながら人と人の交流の場・休憩の場を提供する。 ○キャンプ場 キャンプ場は、水の公園福島潟の宿泊スペースとして利用し、キャンプをとおして自然を体感する場所を提供する。
管理・運営に関する基本理念、方針等	
1	<p>基本理念 市民と指定管理者そして行政が協働・連携して、水と土の象徴である「福島潟」を保全・復元し、自然保護を行い、市民のふれあいの場、学習の場そして活動の場を提供し、地域文化の伝承と新たな文化を創造する「自然文化」を推進する。</p>
2	<p>管理運営方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ①市民の福島潟に対する意思を十分に尊重するとともに、市民と行政と協働・連携を図り効率的な事業の運営を行うものとする。 ②「地域づくり」、「人と自然の共生」、「環境保全」を更に進め、豊かな福島潟を後世に継承していくものとする。 ③各施設の機能や設置目的を理解し、適正な管理運営を行い、その効果を最大限に発揮させるよう努力するものとする。 ④業務全般について、計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、業務仕様書に示す業務を適切な進捗管理を行い効率的かつ効果的な管理運営を行うものとする。 ⑤入館者及び施設使用者の意見を反映させサービス向上を図ると共に、平等利用に努めるものとする。 ⑥施設の管理運営経費の削減に努めるものとする。
3	<p>実施事業 福島潟の自然文化に資するため次の事業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①福島潟の自然保護の普及及び啓発に関すること (環境学習等に係る学校案内等、企画事業、環境保全事業 等) ②福島潟の自然及び文化に関する情報の収集及び提供に関すること (自然情報や地域文化の情報収集、ホームページ等での情報提供、漁具民具等の展示 等) ③福島潟の希少な動植物の保護及び育成に関すること (オニバスやオオヒシクイ等保護育成 等) ④市民が行う福島潟の自然又は文化に関する活動の支援に関すること (各市民団体が行うイベント協力等の活動支援、ボランティアの受け入れ環境の整備 等)

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価 ※	評価コメント ※
市 民	施設入館者数	水の駅「ビュー福島潟」 入館者数（1階カウン ター）年間97,000人以上	年間、一階カウンター 91,528人有料入館者数 39,670人となった。	C	入館者数が、 指標に達して いない。
	企画展の実施	年9回	年9回実施した。	B	
	各種サービス別満足度	利用者アンケートの実施で 満足度が70%以上	「満足」と「大いに満足」を合 わせると、通年で94%となっ た。	A	満足度が指標 より24%上 回った
	苦情・要望に対する対応	苦情・要望には5営業日以 内に回答	細かな苦情・要望については 5営業日以内に適切に対応 した。大きな苦情・要望はな かった。	B	
	自主事業の実施	設置目的に合致した自主事 業の実施	これまでの自主事業は引き 続き実施した。また、潟総お どり、デイキャンプなどのイベ ントやクイックイ関連グッズの 開発を行った。	A	既存事業を継 続し施設の特 性を活かした 事業を実施し た。
財 務	運営経費の削減	管理運営経費を指定管理料 年度協定額以下	指定管理料年度協定額以下 に収めることができた。	B	
	適正な財政運営、財務管理	収支計画に基づく収入の確 保及び費用の執行、収支状 況記録の適正な管理	施設使用料ベースで対前年 度比139.9%、指定管理会 計上収支率は、115.4%、 自主事業会計は、22.7% 収益回復した。	B	
業 務	事業の適正な実施	業務仕様書等に定める事業 の実施及び遵守と業務マ ニュアルの作成	業務仕様書に定める事業を 適正に行った。	B	
	福島潟の自然環境に関する普及啓発	環境学習等案内80回以上、 各種体験講座、観察会10回 以上	環境学習等案内133回。その うち学校案内は63件対応。 職場体験7校、各種観察会 は25回189名実施となった。	A	指標を大幅に 上回る事業を 実施した。
	福島潟の自然文化に関する情報の収集及び提供	自然情報の収集週1回以上 地元学イベントの開催 ホームページ等の更新80回 以上	自然情報の収集は週2回程度行 なった。地元学シリーズ「地元学 シリーズ第16弾 潟のながめ 展」を実施した。ホームページの 更新は200回以上となった。	A	指標を大幅に 上回り、ホーム ページを利用 し啓発も行っ た。
	希少な動植物の保護及び育成	オオヒシクイやオニバス等 の調査、啓発活動随時 希少な動植物に関わるイベ ント3回	オオヒシクイの観察（飛び立 ち26回と周辺調査18回）を 行った。オニバス案内は8月 に12回、計789名を案内し た。希少植物（サワオグルマ 等）の保護活動は、イベント として2回行った。	A	指標を大幅に 上回る事業を 実施した。
	市民が行う自然文化活動の支援・協働・連携	通年で良好な対応 市民団体が行う活動の支援 や連携イベント10回以上	ねっと、ヨシ和紙あしの会、 染めの会、鳥彫会、めぐみの 会、潟ごはんの会、潟舟の 会等と連携しながら、21回イ ベントを行った。	A	指標を大幅に 上回る事業を 実施した。
	事件・事故発生時の対応の適切さ	AED等救急機器の使用法研 修を実施 事件事故時適切な対応	AED等救急機器の使用法研 修を実施した。 大きな事故はなかったが怪 我等は、適切に対応した。	B	
	安心安全の確保	防災等訓練年2回、緊急連 絡網と危機管理マニュアル の整備	防災等訓練年2回、緊急連 絡網の整備と危機管理マ ニュアルは改訂整備中。	B	
人 材	配置人員のミッションの理解度とスキルの習得度	職員研修を年2回以上実施	職員研修会は2回行った。7 月、1月に実施した。	B	
	自然指導員人材育成	自然系専門知識習得の職場 内研修等を年4回以上実施	自然系専門知識取得のため の職場内研修は、各月1回 以上行った。外部研修は6名 のべ12回行った。	A	指標を大幅に 上回る研修を 実施した。
	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	労働関係法令の遵守して、 労務管理を行った。	B	

【評価基準】

A: 要求水準(評価指標)を達成し、かつその達成度・内容が優れている

B: 要求水準(評価指標)が達成されている

C: 要求水準(評価指標)が達成されていない

※評価について、「A」を付ける場合は「優れている点」を、「C」を付ける場合は「達成されていない点」を、「評価コメント」欄に明記してください。(評価指標が達成されているだけなら「B評価」で、その達成度や内容が優れていなければ「A評価」とはなりませんので、ご注意ください。)

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

指定管理者として、(1)生物多様性の保全と持続可能な利用に配慮した地域づくりを進める。(2)より確かな情報の収集・発信と公益使命の自覚と「おもてなしの心」の向上 (3)行政と協働・連携を図り市民の意思を十分に尊重し、効果的かつ効率的な運営を行う方針をかけた運営をしている。

1階カウンターは前年比91.2%であった。有料入館者数は前年対比88.5%となった。適正な記録・管理を進め、光熱費管理は昨年同様の節減の維持ができた。未達成項目(入館者数)について、これまでの経験を活かしながらも新たな提案を試行実践することで達成に努める。

課題としては、潟べりの歩道の浸食や木道の傷みなど公園内での安全管理に関わること。また構造物や設備品の老朽化の対処等がある。ビュー福島潟が20周年を迎えるにあたり、これらの現状把握と未来に向けた検討、取り組みを関係者と進めていきたいと願っている。

所管課による総合評価(所見)

有料入館者数は、指標を下回ったが第19回福島潟自然文化祭(主催:実行委員会)の来場者が2千人減少した影響が大きい。しかしながら、来館者の満足度は高く、職員研修を前年度以上に開催するなど人材育成の意識も高く、今後の集客向上に繋げていただきたい。

財務状況について、光熱水費は、昨年度比の約12%程度超過したため、引き続き経費節減に努め改善を期待する。反面、施設使用料は、対前年度比139.9%、指定管理会計収支率は、対前年度比115.4%など、経営努力は評価されるものと判断される。さらに増収に向けた分析、並びに事業の再評価などにより、より健全な施設管理・運営を期待したい。

本年度で、ビュー福島潟が20周年を迎え、指定管理制度に移行し4年目を迎える。実務経験も高まり、概ね順調に施設運営がなされているなか、今後も引き続き、新潟市と情報共有を図りながら、地域の諸団体と連携を広げ事業実施を行うことで、さらに地域に根ざした施設となるよう期待したい。

なお、新潟市でも、施設補修も随時対応し、安全管理を徹底したい。